平成２２年１１月２５日発刊　発刊責任者：森町森５４８番地　亀澤進　090-1567-6256　http://kamezawa-susumu.com

町政新聞

「踏みしめて」第19号

～町の様子を皆様に伝えていきます～

始　平成二十一年五月～

亀澤　進

森の祭り、もりもり二万人祭り、共に好天に恵まれ、例年以上にたくさんのお客様で森町が賑わいました。私は、それらに参加、また観察してみて。若者の減少、商店の衰退等の問題を抱える中、来訪客の期待に応えられるよう、私たち町民が一丸となって模索していくことが、森町の維持・継続、そして発展につながっていくことだと強く感じました。

さて、今号は、１１月１８日から１９日に実施した所管事務調査を主に掲載していきます。

歴史的資源を活用したまちづくり　香取市佐原

１１月１８日に、千葉県香取市佐原に視察に行ってきました。平成１８年に、佐原市、小見川町、山田町、栗源町が合併し、現在の香取市になりました。佐原は、昨年１１月森町で開催された国民文化祭で、お囃子を披露していただいたことが記憶に新しいと思います。

佐原は、江戸時代に利根川水運の要衝として栄え、「小江戸」と呼ばれていました。中央を流れる小野川やこれと交差する香取街道沿いには、往時の繁栄を物語る土蔵造りの商家群が今でも残っています。町並みは、森町の町並みを思わせる雰囲気が漂っていると思いました。

昭和５０年に施行された「伝建制度」に際し、昭和４９年頃から千葉大学名誉教授（現）大川直躬氏の指導により調査が開始され、平成８年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、翌９年から文化庁による「保存修理事業」が開始されました。この時尽力されたのが「小野川と佐原の町並みを考える会」（平成３年発足）で、重伝建地区の都市計画決定に際し、９２％の驚異的な住民同意を達成されました。

その後、建造物の修理・修景を重ね、歴史的町並み景観が向上し来街者が増加。平成１４年には、佐原商工会議所が「佐原戦略ビジネスプラン」を策定しＴＭＯの認定を受け、ＴＭＯ構想を契機として「小野川と佐原の町並みを考える会」の他に、まちづくり会社（株）ぶれきめら、ＮＰＯ佐原の大祭振興協会、まちづくり会社（株）ゼットやぺい社、佐原おかみさん会など多様な担い手が登場しました。しかし一方で、空き店舗、回遊性の硬直化、住民意識の低下、佐原町屋の耐震性、公共施設修景の立ち遅れなどの問題点が顕在化していました。

そして、そうした問題解決のために新たなツールが選択されました。

○「芸術文化振興基金助成事業」（平成１６～１９）→住民意識の向上。
○「町並み環境整備事業」（平成１７～）→回遊性向上と公共施設修景。
○「まちづくり交付金」（平成１８～）→空き店舗の解消と賑わい空間の創出。
○「住まい・まちづくり担い手事業」佐原町屋研究会設立（平成２１～）→伝統木造建築の耐震化。

◆ＮＰＯ法人小野川と佐原の町並みを考える会…建造物所有者（財産権）と行政（公共性）の間に立ち、まちづくりや観光振興を目的としながら調整役を担う、住民運動の草分け的存在。

◆ＮＰＯまちおこし佐原の大祭振興協会…「自分たちが楽しむ祭り」から「見せる祭り」へ転換し、大祭や佐原囃子を見せるイベントとして全国へＰＲや地元特産品の販売などを手がける。その後、１００万人の見物客が訪れるなど全国的に知名度がアップする。そして、「江戸優り佐原の大祭」が国の重要無形民俗文化財に指定される。

◆佐原おかみさん会…「町全体そのものが博物館」をイメージに、重要伝統的建造物群保存地区を中心とした各商家などが、それぞれに受け継がれてきた暮らしにまつわる自慢の品を各個店で“博物館”として展示。来街者が各館を巡ることで、佐原の歴史、文化、暮らしそのものと、人の優しさにふれる仕組みを提供し、滞在時間の延長や観光客の生の声を聴いて改善に努めている。それにより、消費の拡大やリピーターの増加につながる成果が現れた。

「あがしし君」工房　群馬県中之条町

群馬県内では農作物の鳥獣被害が年々増加し、特にイノシシによる被害は深刻です。平成元年度の被害は約６００万円でしたが、２０年度は約８５００万円となり、被害防止目的の捕獲頭数も７頭から1，９９３頭まで増えました。今回視察した中之条町がある吾妻（あがつま）郡でも２０年度に８７７頭、２１年度には1，２２１頭ものイノシシが捕獲されました。

そんな状況の中吾妻郡７町村は、１８年度から、捕獲したイノシシを有効利用しようと、中之条町に獣肉処理施設を開設し、「吾妻のイノシシ」＝「あがしし君」と名付け、イノシシ肉のブランド化に取り組んできました。

精肉加工されたイノシシ肉は、地元四万温泉などの旅館・ホテルや食堂でメニューとして加えられ、料理に工夫を凝らしているそうです。また小中学校の給食にも取り入れて、地産地消にも力を入れているそうです。

施設は、木造平屋建て１０１．８５㎡、総事業費３９，３０２，７８７円（内県補助１４，９５６，０００円）で、２０年度の事業収益は8，２６５，３４１円（搬入頭数１６０頭）でした。

問題点や今後の課題については、精肉加工できるイノシシが体重３０キロ以上で、止め刺しは頭にしてある個体であることと、捕獲後１時間以内で処理をすることなどの条件により、搬入頭数が捕獲頭数の２０％弱であること。赤字覚悟でできるだけ広域化することが挙げられました。

ランク	買い取り価格	適用	備考
A品　１１月～２月	¥1,380	１kg当たり	
B品　９月～１０月	¥830	１kg当たり	但し個体によっては異なる
C品　３月～８月	¥270	１kg当たり	

年度	捕獲頭数	搬入頭数
１８	1,327	0
１９	681	130
２０	877	160
２１	1,221	225

製品名	直売所価格	適用
ハム	¥4,000	１kg当たり
ウィンナー	¥525	５本入り
レトルトカレー	¥525	１袋１人前
コロッケ	¥600	３個入り
サラミソーセージ	¥500	１本
スナックサラミ	¥300	１袋
佃煮	¥400	１５０ｇ入り
そぼろ	¥400	１５０ｇ入り

製品名	直売所価格	適用
バラ肉	¥2,700	１kg当たり
もも肉	¥4,000	１kg当たり
ヒレ肉	¥5,300	１kg当たり
肩ロース肉	¥4,700	１kg当たり
背ロース肉	¥4,700	１kg当たり

２１年度国保の状況　事業年報より

平成２１年度分の森町における国民健康保険の被保険者数は、一般5，０７２人、退職４４７人、後期高齢者3，２７８人、計8，７９７人で、静岡県全体では1，５５３，４５７人でした。

１件当たりの費用額は、一般２９，３０７円（9位）、退職３０，７６９円（１１位）、後期高齢者４９，６１５円（1位）。1件当たりの日数は、一般2．１１日（5位）、退職2．１６日（3位）、後期高齢者2．７７日（6位）。1人当たりの費用額は、一般２７５，２０１円（5位）、退職３４４，１７５円（１４位）、後期高齢者７６９，２６２円（１位）となり、いずれも上位の方にランキングされています。

『でっかい子育て、人育て』　お知らせ

１２月１４日（火）１９時より森町文化会館大ホールにて「元気になる講演会」を開催します。テーマは、『でっかい子育て、人育て』で、今回で4回目となります。是非ご来場下さい。

入場料は１０００円（高校生以下無料）、講師：中村文昭 氏　主催：森町掃除に学ぶ会